

## ★紫波町長寿健康課（保健センター）

◎肝炎対策について自治体の取組

### 【紫波町の概況】

- ①人口：34,131人
- ②世帯：11,143世帯
- ③高齢化率：23.6%（以上平成23年9月末）
- ④肝および肝内管の悪性新生物による死亡率：50.8%

### 【紫波町におけるC型肝炎対策の経過】

国では、平成14年度から5ヵ年計画で「C型肝炎等緊急総合対策」を実施し、平成20年度からは肝炎治療7ヵ年計画も始まり、肝炎対策が本格化しました。

紫波町は、岩手県予防医学協会（検診機関）の資料によるとC型肝炎キャリアの割合が県内で最も高いといわれ、また、肝臓がんの死亡率も県平均の2倍以上という実態があります。

そのため、町では以前から肝炎対策に取組み、肝炎ウイルス検査については、平成5年度から町民を対象に実施しています。

平成14・15年度は国庫補助事業「地域保健推進特別事業」として、肝炎対策を目的にさまざまな事業に取り組み、その事業を現在も継続しています。

昭和50年代	特定の地区に、肝機能異常値の借方多く存在する実態を踏まえ、
平成5年度～	医師会の協力を得て、講演会や健康診査を実施 循環器検診に併せ、肝炎ウイルス検査を導入 7年度までの3年間は受診者全員を対象に検査、8年度からは初回受診者を対象として実施 9年度までの5年間「地域保健推進特別事業」の補助を受け 肝臓病教室実施（延べ20回）
平成14・15年度	地域保健推進特別事業としてC型肝炎啓発プログラム事業実施

### 【平成22年度肝炎対策事業】

#### 【1】肝炎ウイルス検診

- ①今年度から総合検診の開始時期に合わせて、新40歳（440人）と60歳で町の肝炎ウイルス検査の未受診者（308人）に対して個別通知で受診勧奨を行った。
- ②総合検診では肝炎ウイルス検査未実施者に検査を勧め、キャリアの早期発見に努めた
- ③新規発見者に対しては、個別に訪問し、専門医受診の必要性について説明し受診勧奨した。その後電話や訪問により受診の確認を行った。

- \*平成14年度の検診受診者は3,189人で総て同意書を書いて貰っている。
- \*貧血の検査等（法律に基づいた）と同時に検査を行い、保険所は無料。
- \*総合検診に付随する場合は有料の場合もある（総合検診は有料だが、紫波町は肝炎を追加しても無料）
- \*やはり無料だと受けやすい、黙っていると受けない、強制はできない、受けていない方はマークされていてわかるようにしてある。  
問診表にて検診しているかわかる（社会保険の方も）

#### 【2】腹部超音波検診

- 日程：平成22年9月9日から11月11日 延べ7日間
- 検診機関：県立中央病院附属紫波地域診療センター
- 対象者：①新規に発見された肝炎ウイルスキャリア  
②主治医のいない者、または超音波検査の機会のない者
- 受診者数：49名（男性20名、女性29名）

- ・検診結果の説明は検査を行った医師が担当し、後日「結果通知書」を保健センターから送付。

- \* 腹部超音波検診のメリット
  - ・安全に受けられる
  - ・肝臓の状態の変化を発見できる（腫瘍等）
  - ・「専門医」は超音波検診で腫瘍が発見できる
  - ・きっかけとして次につなげるための検診
- \* 本来は、専門かかりつけ医がやるべきものであるが、専門かかりつけ医がない患者もあるので、外部から先生を呼んで行う。また、専門かかりつけ医のある患者も、進められて受信を行っている。
- \* 市負担8450円、個人負担1000円
- \* 全員に手紙を出して通知している。状況がわからない患者もいるが、アンケートと称して保健士が追跡する。

### 【3】肝炎治療費助成事業

- ① インターフェロン療法を行う患者に対して治療費の一部を助成する事業を、平成16年度から継続実施中。平成21年度から助成期間を1ヵ月延長し6ヶ月間とした。今年度の申請は10件。
  - ② 事業開始時からの申請延べ件数は87件。（3名は再申請者であるため実人数は84名）
  - ③ 事業の周知
    - ・ 事業案内通知に併せた制度のお知らせの郵送。
    - ・ 医療機関への制度を周知する通知の郵送。
    - ・ 県の治療費助成申請者に対しての町の治療費助成事業の紹介を県央保健所に依頼。
    - ・ 町の助成事業申請で来所した際は、県の治療費助成について説明し申請用紙も配布。紫波町肝炎治療費助成事業のパンフレット（別紙）
- \* インターフェロン治療のみの補助で、他の治療については補助は行っていない。平成16年から単独でスタート、現在は6ヶ月間は無料で受けられる。
  - \* 以前はインターフェロン治療に年間80～100万円かかっていた。

### 【4】個別相談会

- 日 程：平成22年11月28日（日）
  - 相談医：あべ菜園内科クリニック 院長 阿部弘一 先生  
岩手医科大学 消化器・肝臓内科 助教 宮坂昭生 先生
  - 相談者数：13名
  - ・ 1名（1組）あたり約20分間の個別面接を実施。
  - ・ インターフェロン治療後受診間隔や検査についてや肝炎の病態と治療内容に関する相談。
- \* 病院では「忙しそうだから」となかなか相談できない患者が多い

### 【5】肝炎教室

- 日 時：平成23年2月6日（日）
  - 内容・講師
    - 講演：①「知っておきたい肝炎の話～治療と日常生活のこと～」  
岩手医科大学 消化器・肝臓内科 助教 宮坂昭生 先生
    - ②「患者会の活動から」  
いわて肝友ネット 会長 阿部洋一 氏
  - 参加者数：21名
- \* 大野市においては肝炎教室は患者会が開催する。費用は講師謝礼のみで会場は社会福祉協議会の協力で減免措置を受けられる。
  - \* 大野市のレベルが全国的なレベルである。

【6】当事者交流会（出前講座）

- 日 時：平成23年3月24日（予定）
- 地 区：赤沢3区
- 内 容： ①町の事業の紹介 ②情報交換・交流会

\* 参加人数は少ないが、話しやすい場になっている。以前は患者1人の独演会になった事もあったが、現在は患者同士の交流の場になり、地区以外からの参加者もある。

【7】肝炎の知識の普及啓発

- ① 「一生に一度は受けましょう」というワンフレーズを使ったお知らせを広報に3回掲載。
- ② 電話による肝炎ウイルス検査についての相談に随時対応

\* 相談内容

問 数値が良くなったのでのもう病院にいなくていいのか？

答 定期的に行ったほうが良い

問 病院にいった方からは、どこの病院に行くか？

答 行政としては固有名詞は難しいが、肝炎かかりつけ医という看板があるので、お勧めはできる。

（福井県内のかかりつけ医は18病院、大野市には無い。看板はあるのか？）

【8】関係機関との連携

肝炎対策検討会を開催し、具体的な支援方法の検討を行う。

- 日 勝：平成23年2月24日（木）
- 会 場：保健センター
- 構成員：肝疾患診療専門医、町医師団、検診機関、いわて肝友ネット

